



かながわ露頭まっぷ ～鷹取石と池子石～ 小田原 啓 (神奈川県温泉地学研究所)

写真1 鷹取石採石場跡。

■はじめに

昨年の観測だよりでは、真鶴半島番場浦の採石場跡の露頭を紹介しました。神奈川県内にはたくさんの採石場跡があります。今回は三浦半島の付根付近に位置する、横須賀市鷹取山と逗子市池子の採石場跡の露頭について紹介したいと思います。

■鷹取石採石場跡

場所：

神奈川県横須賀市湘南鷹取(図 1)
緯度経度：

北緯 35 度 18 分 23.4 秒

東経 139 度 36 分 45.7 秒

アクセス：

京急追浜駅より京急バス「湘南たかとり団地循環」に乗車し、たかとり小学校前下車。徒歩 10 分程度。

鷹取山では明治から昭和初期にかけて採石が行われていたそうです。その採石場跡(写真 1)が公園として整備されています。

鷹取山公園の露頭を観察してみると、火山礫凝灰岩(写真 2)と凝灰質粗粒砂岩(写真 3)が見られます。火山礫凝灰岩は、粒径 3cm くらいまでの黒色の火山岩礫と白色の

軽石が特徴的です。凝灰質粗粒砂岩は粒度の粗いものと細かいものが層を成している様子が観察されます。これらは、三浦層群の最上部にあたる、池子層鷹取山火砕岩部層と呼ばれる地層です(江藤ほか、1998)。現在は三浦半島の周辺には火山はありませんが、これらの火山噴出物をもたらした火山が相模湾内にあったのではないかと考えられました(Matsuda, 1962)。しかしながら給源火山そのものを示す証拠はいまだ見つかっていないことから、「幻の湘南火山帯」(松田、1980)と呼ばれています。

さて、鷹取山は風光明媚なところ

です。山頂(標高 139m)の展望台からは、横須賀の海が一望できます(写真 4)。また西側を望むと、江ノ島を見ることができます。また、開発の進んだ三浦半島において自然が残されている場所でもあります。さまざまな野鳥や植物を観察することができる絶好のスポットです。野鳥や植物観察については鷹取山自然観察会のホームページ(<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>)に詳しく掲載されています。なお、鷹取山公園では岩登りは禁止されています。ロッククライミングをする際には、鷹取山安全登山協議会に登録する必要があるとのことです。

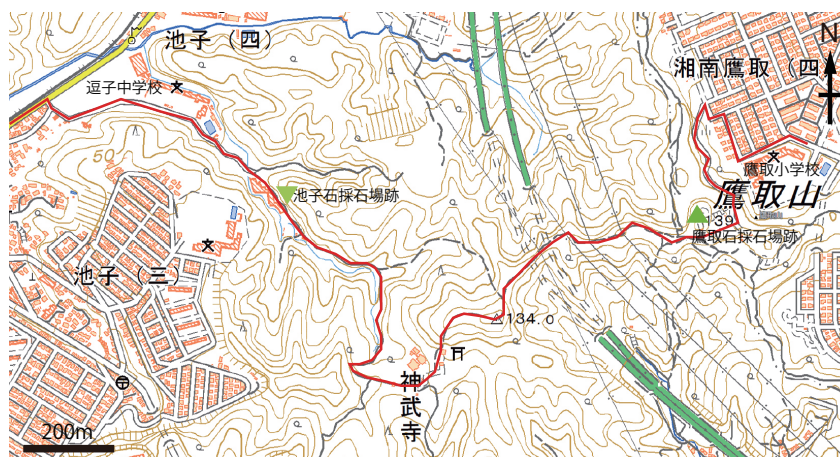


図 1 鷹取山周辺の地図。赤線が今回歩いたルート。
地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) に加筆。



写真2 鷹取山火砕岩部層火山礫凝灰岩

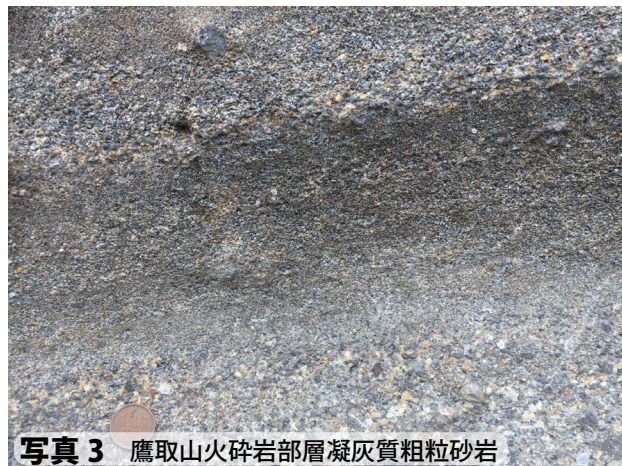


写真3 鷹取山火砕岩部層凝灰質粗粒砂岩

■池子石採石場跡

場所：

神奈川県逗子市池子（図1）

緯度経度：

北緯 35 度 18 分 24.5 秒

東経 139 度 36 分 10.2 秒

アクセス：

京急神武寺駅より徒歩 10 分程度。

鷹取山周辺はハイキングルートが整備されており、神武寺から逗子中学校の間に池子石採石場跡があります（写真5）。鷹取山と神武寺の間は岩場の尾根道で、途中には鎖場（写真6）がありますので、健脚の方に向いたルートです。

池子石採石場跡の地層は、江藤ほか（1998）の地質図によると、神武寺火砕岩泥岩部層の分布域にあたります。同部層は、鷹取山火砕岩部層の西半分が下位の逗子層を伴って海底地すべりを起こし再堆積したも

のと考えられています。

■おわりに

火山噴出物が堆積してできた凝灰岩は、花崗岩や安山岩などと比べて軽くて軟らかく加工がしやすいため、昔から石材として広く利用されてきました。最も有名なのは栃木県の大谷石です。現在、鷹取山や池子では採石が行われていませんが、いまでも古い家の石塀などに使われているのを見ることができます。みなさんの身の回りの生活にどのような石が使われているのか、調べてみるのも面白いかもしれません。

■参考文献

江藤哲人・矢崎清貫・卜部厚志・磯部一洋（1998）横須賀地域の地質。地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），地質調査所，128p.
Matsuda, T. (1962) Crustal



写真4 鷹取山からの展望

deformation and igneous activity in the South Fossa Magna, Japan. Crust of the Pacific Basin, Geographical Monograph, no. 6, p. 140-150.

松田時彦（1980）伊豆の行方—最近数百万年の移動方向—。月刊地球，2 巻 2 号，164-168.



写真5 池子石採石場跡



写真6 鷹取山—神武寺のハイキングルート